

奥会津だより

第33号

2005年晩秋



豆ぶち

晩秋の陽を浴びる軒先でリズムカルな音が鳴り響く。

軒に干して乾燥した豆の束を手のひら状の木の枝で叩くと、殻が壊れて広げた筵の底に豆が残る。黒豆、青豆、大豆、小豆。色とりどりの豆は、お正月を中心にした冬の大切な蛋白源だ。

正月料理に欠かせない黒豆の煮物や浸し豆。年末までに作られる打ち豆。豆料理は広いレパートリーで日々の食卓を彩る。

豆殻は畑で焼いて来年の肥料としてたり、サイノカミの燃え草としても必需品である。

ここには、どこにも無駄のない理想的な循環の姿が見える。

じぞうさまゆきにつつまれつめたそう
小勝 舜くん(館岩小)

奥会津の写真撮影ポイントガイド

今回で第10回を数える奥会津フォトコンテストには、奥会津の四季折々の美しい風景写真の数々が多く寄せられています。フォトコンテストの審査員として奥会津を見てこられた上原治雄先生と堀江克彦先生に、その魅力と撮影ポイントを紹介していただきます。

上原 治雄

日本写真家協会会員
竹内信の風景写真塾講師
（中央高等学校生涯学習センター）

雪深い奥会津の冬は雪の着いた木々、川岸の灌木や起伏のある川原、川の中に点在する石に乗ったお饅頭のような造形など、雪が創造した造形が美しい風景を見せてくれます。只見ダム（只見町）、舟鼻峠（昭和村）や、只見川、伊南川沿いがメインの撮影ポイントとなります。



館岩村

春から秋にかけては、JR只見線が走る只見町・金山町・三島町・柳津町の新緑の溪谷、只見川の川霧が幻想的な風景。南郷村



藤八の滝



只見ダム

の清水自然公園ひめさゆりの群生は6月中旬から7月上旬頃。金山町と昭和村を結ぶ綱木溪谷は切り立つ岩壁に生きる木々の新緑や紅葉。

昭和村の401号線辺りは、季節が見せる葉の彩が美しい玉川溪谷、藤八の滝、矢の原湿原の池、ミニ尾瀬をイメージする駒止湿原。伊南村にある屏風岩には巨大な岩や矩形の岩が広がり、川原も被写体になります。山間の雪深い奥会津では紅葉に初雪が冠雪した情景に出会えるチャンスも期待できます。

第10回 歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト 作品募集中!!

「自然風景・郷土文化部門」と「只見線&SL部門」の2部門で募集を行っています。要項・応募用紙をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

- 自然風景・郷土文化部門
個人作品の部・グループ作品の部
応募締切 平成17年11月25日(金)
- 只見線&SL写真部門
応募締切 平成17年11月21日(月)
- ◆コンテストに関する問い合わせ
奥会津「写真・文化の郷」事務局
☎03-5638-2217

堀江 克彦

フォトジャーナリスト
日本写真家協会会員

奥会津は、すべてが撮影ポイントと言えるくらい奥の深いところである。自然現象のすべてが凝縮されたといっても過言ではない。また、この雄大な自然に囲まれて生活する人々の心の温かさも忘れてはいけぬ被写体である。ここでは、特に印象に残った撮影ポイントを何ヶ所か紹介します。

◎矢ノ原湿原(昭和村)

初夏から秋までそれぞれに表情が変わり特に雨の日には一度は訪れてほしいところです。沼を一巡する遊歩道もありここを一周するのも楽しいものです。冬季は不可。



矢ノ原湿原

◎歓満の滝(館岩村)

道路からやや低い位置にありますが、奥会津の滝の中でシーズンを通して撮れる貴重な滝です。冬は足元に十分注意して撮影して下さい。



歓満の滝

◎入叶津(只見町)

冬の早起きに強い人にお勧めです。叶津川に沿って入り最後の集落近辺での撮影になります。山肌に光る朝日は最高です。雪の撮影に行き詰ったらぜひ訪れて下さい。集落での撮影ですので近隣の方に迷惑にならないように注意しましょう。



入叶津

◎モーカケの滝(檜枝岐村)

秋は、滝と紅葉ねらいでいきましょう。滝つぼは見えませんが、観瀑台からの撮影をお勧めします。周りの風景で充分満足します。冬季は不可。



モーカケの滝

奥会津つれづれ

ファインダーを覗き込むと、望遠レンズが山肌をこぼれ落ちていくわずかな水しぶきを捉えている。はるか遠くの景色が目前にあるようで、思わず声をあげてしまう。自分の目で見る景色とは違う、もうひとつの景色がそこには広がっていた。

再び奥会津で暮らしてはじめてから、毎年見ていたはずの紅葉や枯れ薄も、時に初めてみるような新しい景色に感じることがある。それは単に色彩や陰影の違いだけでなく、歳を重ねて自分自身もまた変わりつつあるからかもしれない。

人間は、生まれてすぐに五感が正常に機能するわけではない。例えば、「目」は生まれた瞬間から発達をはじめ、正しく使われることで経験を重ねて発達していく器官なのだ。

カメラもまた同じだと思う。最初は何となく美しいからレンズを向けるが、ぼんやりとしていて分からない。次にどこが一番美しく心を引きつけたのか考え、そこに焦点を合わせることで自分が見たいものがだんだんと見えてくる。焦点に自分の思いがなければ、本質を捉えることはできないし、相手にもその思いは伝わらないのだ。

どこに住み、何をしているかそれぞれが違うように、人は誰でも自分だけのファインダーから世界を見ているのか。そこから何が見え、どう感じているのか。自分自身に問いかけていきたい。(治)

奥会津に暮らす ● 冬支度 ●

奥会津の長い冬が始まろうとしている。
これから半年近くは、雪に囲まれた生活を送ることになる。
その備えのために、様々な作業が行われる。
食と住への備えを万全にして、やがて舞い降りる白き神々を待つのだ。

野菜の保存

初雪を一度被った野菜は、糖度を増しておいしくなるといわれている。しかし、一度に獲り入れるのは特に老人の家庭では困難なので、晴れた日ともなるとあちらこちらの畑で大根や白菜を摘む光景が見られる。大根、白菜、長ネギは、長い冬の間の食料として欠かせない。大根と白菜の消費量はどの家庭でも多く、※大根ニヨウを作って保存する地域もある。



軒先に野菜を並べて・天日干し



稲を刈り終えた田

して水で洗い、半日ほど天日にあてて取り込む。

白菜もやはり洗って土を落とし、天日干ししてから一株ずつ新聞紙で包んで、立てて保存する。長ネギだけは土を落とさず、数本ずつ新聞紙でくるんで保存する。いずれも寒さで凍るのを防ぐためだ。里芋の茎は軒下などに吊り下げて乾燥させる。戻して酔の物にしたり、味噌汁の具などに重宝だ。渋柿をむいて吊るした干し柿は、年々作る人が少なくなってきたが、天ぷらなど郷土の料理には欠かせない食材である。

秋じまい

収穫を終えた畑は、翌年の春にすぐ仕事に取りかかれるように整理しておく。

キユウリやインゲンを支えた柴垣や木の棒などを整理して、来年また使用できるよう一ヶ所に集めておく。豆ブチを終えた豆ガラは、硬くて土に戻りにくいため、乾燥した豆ガラや柴を束ねていたフジ蔓などと一緒燃やす。灰は畑の肥料として来年の春まで土を整えてくれる。

※大根ニヨウ：収穫した野菜が寒さで凍まないように積み、まわりをワラで囲んだもの。

雪の予兆

- ❄️ **青山さ雪降る年は秋長え**
まだ山が紅葉しないうちに頂上に雪が下りた年は、根雪が遅く降雪量も少ないという。
- ❄️ **神社の銀杏の葉がなくなると初雪が降る**
雪見の銀杏と言われている銀杏の大樹はどこからでも眺めることができ、この木の落葉で初雪の時期を予測する。
- ❄️ **カメ虫が多く入った年は雪が深い**
カメ虫は屋内のあらゆるすき間にもぐりこんで冬眠する。たくさん入った年は寒さも厳しいといわれている。
- ❄️ **カマキリの巣が低いと雪も浅い**
カマキリの巣の高さで降雪量を予測する。高さの基準はその人それぞれだ。

「歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト」入賞作品より

奥会津とっておきの風景

初冬の奥会津

*詳しい撮影場所、その他の入賞作品はホームページでご覧いただけます。
《歳時記の郷 奥会津》 <http://www.okuazu-style.com/tdrsk/>



第3回作品 『初冬のダム』
撮影者：片平昭二
撮影地：金山町



第2回作品 『暁に輝く』
撮影者：吉田すてみ
撮影地：只見町



第6回作品 『霜光る』
撮影者：日野 剛
撮影地：舘岩村

